

2015年を迎えたASEAN

2015年はアセアン（東南アジア諸国連合＝ASEAN）にとって重要な年である。今年末には、アセアン10カ国による経済共同体（AEC）の設立がいよいよ迫っている。財やサービス、投資や熟練労働者が自由に域内を行き交う、6億人の人口を抱える経済共同体の創設となる。2007年に確立したブループリントと呼ばれる設計図に従い、経済共同体設立に向けた取り組みが今年ゴールを迎える。

アセアン経済共同体を支

AECは日本にも

恩恵もたらす

そしてグローバル経済への統合である。各目標の達成率は高く、特にアセアン域内の関税についてはほぼ完全な自由化を達成している。しかし一方では、進展が遅い分野が残っている。サービス貿易の自由化や、非関税障壁の削減、熟練労働者の移動などでの進捗が遅いとの指摘がある。今年末までの達成は困難であろうが、継続的な実行が期待されている。

IMFが今月発表した世界経済見通しによると、アジアでは世界の他の地域をしのぐ5%半ばの経済成長が継続するものの、その成長スピードには若干のかけりが見込まれている。しかしながら、アセアンにおいてはフィリピンとベトナム

の4つの目標とその実行は、アジア地域経済の自由化と国際間での生産分業を促し、競争力を高めながらグローバル経済との関係を深めていくであろう。

で6%を超える高い経済成長が予測されている。総じて良好なアセアンの経済見通しではあるが、一方で将来的なリスクや課題も存在する。短期的には、家計・企業のドル建て債務コストが高まるリスクがある。中期では、多くの先進国の経験と同様に、人口の高齢化と生産性の減速による潜在成長力の低下が懸念される。豊富で若い労働力に支えられているアセアンは、現在享受している人口ボ-



いたくりけん 国際経済。パデュー大 学Ph.D。1969年 生まれ。

名古屋市立大学大学院
経済学研究科教授
板倉 健

える4つの目標は、単一市場と生産基地、競争力を有する地域へ公平な経済発展、

